

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
気仙沼市立鹿折小学校（外1校）	気仙沼市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
気仙沼市立鹿折小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/shishiori-syou/?page_id=81
気仙沼市立唐桑小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/karakuwa-syou/?page_id=13

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
気仙沼市立鹿折小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/shishiorisyou/?page_id=81	http://www.kesenuma.ed.jp/shishiori-syou/?page_id=81
気仙沼市立唐桑小学校	http://www.kesenuma.ed.jp/karakuwa-syou/?page_id=13	http://www.kesenuma.ed.jp/karakuwa-syou/?page_id=13

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・ 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

特になし

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

各学年の地域に根ざした体験や見学を実施することで、課題意識が向上し、意欲的に個人またはグループで活動に取り組む姿が見られた。また、海洋サミットや海洋フォーラムなど様々な発信の機会を得たことで、自らの考えを見直したり、振り返ったりすることができた。さらに、外部の方から意見をもらうことで、より考えを深める様子が見られた。

以上のことから、「海と生きる探究活動」の目標である「気仙沼市の地域、環境、文化に関心を持ち、自分とのつながりとかかわりに目を向けながら、意欲的に課題を解決する児童を育成する」ことにつながったと考える。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

各学年の「海と生きる探究活動」の学習内容は地域の自然や伝統、産業、文化を見学、体験し、それらにかかわる課題を設定し、解決する探究的な学習である。児童が設定する課題の多くは、地域と自分とのかかわりを考え、よりよいものにしていこうとするものである。

このことから、学校教育法第11条の目標「2 学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと」、「3 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」につながると考えられる。

また、気仙沼の産業である漁業の様子を見学したり、携わる方から話を聞いたりすることで、「10 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」にもつながっていると考えられる。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- (1) 副読本の効果的な活用と「海洋リテラシーfor 気仙沼」の普及のため、各校での活用、取組例を集約し、各校へ広める。また、児童生徒だけではなく「海と生きる探究活動」にかかわる地域の方々や保護者にも「海洋リテラシー」について伝え、普及を図る。
- (2) より具体的な活動のねらいや内容、評価の仕方の工夫のために、全体構想やデザインシートなどの見直しを図り、児童一人一人の探究的な学びを充実させる。
- (3) それぞれの課題解決に向けて、インターネットや資料で調べるだけでなく、自ら調査したり、他教科で得た知識を基にまとめたりするため、調べ方やまとめ方について職員で研修を深めたり、他校の成果物を児童に紹介したりしていく。
- (4) 気仙沼市内や他地域の海洋教育推進校とのつながりを深め、互いの取組を参考にし合うなど、より良い取組を探っていく。